
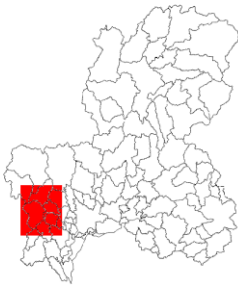


イブキトボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i> Steud. var. <i>breviaristata</i> Ohwi	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		イネ科
選定理由	個体数は少なくないため、すぐに絶滅が危惧される状況ではないが、生育地は限られている。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ30-60cm。葉身は長さ10-25cm、幅1.5-3mm。花序は、長さ8-15cm、小穂は3-5小花からなり、長さ7-9mm。護穎の先は芒になり、ときに無芒、なめらかではなく切れたようにおわる。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は5-6月。石灰岩地である自生地は、コバノミミナグサ、ルリトラノオなどの固有種が多く生育している	
分布状況	日本固有種で、岐阜県と滋賀県、奈良県、四国に分布する。岐阜県では県南西部のみに見られる。隣接する滋賀県にも分布する。岐阜県側には草地が少ないため、生育地は限られている。	
減少要因	道路の拡張や維持のための工事。また、登山者や観光客による踏みつけ、ササやカンボク、マユミなどの低木による遷移の進行。	
保全対策	生息環境の保全。滋賀県側の山頂草原は国指定の天然記念物に指定されている。	
特記事項	基本種のトボシガラは北海道から九州にごくふつうに分布する。	
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県 2005	

文責:福岡義洋